

2010年度西部労福協 第29回研究集会報告

〔 2011年11月11日（木）～12日（金） ホテル日航高知ロイヤル 〕

テーマ 「 龍馬！新時代へのスピリッツ 」

西部労福協「第29回研究集会」を11月11日～12日、高知市に於いて参加者94名で開催しました。

テーマは「龍馬！新時代へのスピリッツ」として、現代に繋がる新時代を拓いた坂本龍馬の精神と行動の世界を学び、今を生きる私たちの糧とすることを目的としました。

初日は、西部労福協 小泉事務局長の司会で開会。西部労福協 安田会長の主催者代表挨拶、高知県労福協 岡林会長の開催県代表挨拶の後、高知県商工労働部 高松清之 部長、高知市 安藤保彦 副市長から歓迎挨拶を受けました。



坂本龍馬記念館 森 館長

基調講演は、「龍馬伝の真実・いよいよ最終章へ=龍馬は生きている=」との演題で高知県立坂本龍馬記念館 森健志郎 館長の講演。

土佐藩士の階級差別の体験と勝海舟との出会いが、公平、自由、平等の龍馬哲学に結びついたこと。私利私欲の無い、命を懸け龍馬への信頼が時代を動かしたこと。もし龍馬が生き続けていたら、近代日本の歴史も変わっており、龍馬の存在は、現在の社会にまぎれもなく繋がっていること。など、熱のこもった講演を聴くことが出来ました。



広島県労福協 向井 副会長

続いて、「第42次欧州視察労働者福祉視察」について広島県労福協 向井高志 副会長より特別報告がありました。スペインでは、モンドラゴン協同組合の（MCC）理念と歴史、事業規模、労働者参加の運営の仕組みと実態、ドイツでは環境先進国ドイツの環境政策・都市・交通・エネルギー政策について、ポーランドでは、ポーランドフードバンクの理念と歴史、現在の事業規模について、フライブルク・ミュンヘン・ワルシャワの各歴史の町並みや文化に触れたとの視察報告がありました。

研修後の懇親会では、高知県労福協 浜田理事による土佐弁での司会や二胡演奏など高知県労福協の心づくしの中で、西部労福協9県の親睦・交流が盛り上りました。



翌日は、桂浜の「龍馬銅像」「龍馬記念館」や「土佐・龍馬であり博〈高知・龍馬ろまん社中〉」を探訪し、龍馬にまつわる歴史の真実について、さらに理解を深め、2日間の日程を終了しました。

